

みんなの「わかる・できる」につながる授業づくり

～特別支援教育の視点に立った学習指導を通して～

1 これまでの大崎小学校の研修

大崎小学校は近年、どの学級にも多動、LD等の傾向をもつ児童が複数在籍し、学級集団が落ち着きに欠けたり、学習に対する意欲が低下したりする傾向が見られた。このことは学力向上を妨げる大きな要因であった。まず、学ぶ意欲をもち、落ち着いて学習に取り組む児童の育成が急務と考えた。

そのために、前年度は落ち着いて学習に取り組む学び合う集団づくりを目指して、「コミュニケーションの力を育てる～特別支援教育の視点に立った学習指導から～」というテーマのもと、以下の2点に焦点を当て研修を進めた。

A：伝え合う力向上のため「話す力・聞く力」を向上させる指導

B：特別支援教育の視点に立った、すべての児童にとって分かりやすい学習指導・学びやすい学習環境の追求

これらの研修を行う中で、話をしっかり聞き、落ち着いて学習に取り組む態度については向上が見られた。しかし、以下の課題が見えてきた。

① 基礎的・基本的な知識や技能の定着が十分ではないこと。（各種標準検査やWebテストの結果から）。

② 発達障害の様子は見られず「おとなしく、授業を妨害しない児童」の中にも、学力不振に悩む児童がいること。

③ ①②のことから、前学年までの既習事項の復習に時間がかかりすぎること。

これらの課題解決に向け、まずは、学力向上に向けての土台づくりが重要と考え、今年度は、国語・算数について基礎的・基本的な知識や技能を整理し、確実な定着を目指すことと、どの児童にとっても分かりやすい授業の実現に向けて、特別支援教育の視点に立った授業改善を一層進めていくこととした。

2 研究主題設定の意図

児童の実態と前年度までの研修を踏まえ、今年度の研究主題を「みんなの『わかる・できる』につながる授業づくり～特別支援教育の視点に立った学習指導を通して～」と設定した。

(1) 「みんなの『わかる・できる』につながる」

基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を目指す。そのために指導内容やその系統性を確実にとらえ、さらに既習事項を活用し、課題を解決できる場面づくりや環境整備を進めていく。単元や1時間の授業の中での「工夫」をねらいや目指すものを意識しながら、確実に実践を積み重ねていく。

(2) 「特別支援教育の視点に立つ」

「落ち着いて授業を受けられない児童は、指示・発問が曖昧なため理解しにくかったり、聞き取りにくかったりすることが原因の一つである」と考え、一文一動・視覚支援・構造的な板書・絵カードを用いた注意喚起等、特別支援教育の視点で実践を進めてきた。支援を必要とする児童にとって分かりやすい授業は、どの児童にとっても分かりやすい授業であるにとらえ、今年度も昨年度と同一の方向で実践を進める。

また、課題解決場面で自力解決が難しい児童には、どのような支援や環境づくりが必要なのかをとらえ、個に応じた「配慮」をしていく。

3 研修のイメージ図

(1) 目指す子どもの姿

『わかる』

『できる』

「今日の勉強の大事なところが分かったよ」

「前に学習した方法が使えたよ」

「勉強したことをまとめられたよ」

「友だちに教えることができたよ」

「友だちが教えてくれて

「自分の考えがもてたよ」

やり方が分かったよ」

次もできるかな？

ほめられた！ 認められた！

友だちが分かったって言ったよ

学習意欲の向上

「わかるようになりたい」「家でもやってみたい」

(2) 目指す子どもの姿に迫るために

子どもの実態・学力分析

指導事項の明確化・
単元構成の工夫

何をどのように習得させるか
既習事項をどう位置付けるか
教材をどう提示するか

特別支援教育の視点に
立った授業づくり

構造的な板書計画・視覚支援
焦点化された指導・絵カード等を用いた注意喚起

基本的な学習規律・学習態度の定着

家庭との連携（家庭学習の習慣化）
・学習ルールの徹底

4 研究主題の実現のために取り組むこと

- (1) 指導事項を明確にした「わかる・できる」授業の実現
国語「読むこと～説明的文章～」、算数「数と計算」領域
- (2) 特別支援教育の視点に立った授業力の向上

(1) 指導事項の明確化

- 系統性や基礎的・基本的事項の整理
 - ・国語、算数の各領域の指導内容について6年間の系統性を整理
 - ・学年でつけるべき説明的文章の「読み方」「学習用語」等の整理

(2) 特別支援教育の視点に立った授業力（「工夫」と「配慮」）の向上

- 授業力向上に向けて構造的な板書計画や視覚支援など「授業づくりの基本」の共有化→「大崎小学校チェックシート」

（授業編、教室環境・授業準備編）

- NRTやWEB配信テストの分析による児童の学力の実態把握
- 「説明的文章を読むこと」「数と計算」領域の単元シートづくり
- 単元シートを活用した本時案作成及び授業実践（PDCA）
- 「ユニバーサルデザイン化された授業」についての校外研修
- 「学校のきまり」を中心とした大崎小学校のスタンダードづくり
- アカデミックスキルの理解と定着
- 家庭と連携した家庭学習の習慣化

(3) その他

- 研修日より「まなびあい」での研修内容の共有化
- 月1回の校内サポート委員会における話し合い（学習支援・学習環境等）

5 成果と課題

指導事項の明確化に向けての単元シート作成は、指導事項が整理され、習得のための教材提示や指導過程の工夫や配慮を考える機会となり、有効であった。十分な教材研究につながり、指導の効果や配慮の是非について焦点付けて考えることができた。各種テストでもその成果が少しずつ表れている。しかし、学期に国算2つずつ現在のシートを作成することは、作成者の負担が大きいため、簡易で効率的なものを考えていく必要がある。また、6年間を見通すという観点で考えると、シート1枚ずつについて、学年部や教科部でさらに検討し、次年度に生かしていく必要がある。

昨年度より、「特別支援教育の視点に立つ」学習指導を意識してきたことにより、子どもたちの学習態度は格段に落ち着いてきている。注意喚起を促してから話をする、話の聞き方の良い行動（モデル）を取り上げて何が良いのか伝えるなどの教師の配慮が、学校全体の集会時にも行われている。そのため、学校全体の話の聞き方も良くなってきている。今後さらに、効果のあった手立てを整理し、全職員が共有し、活用していけるよう研修を進めていきたい。

みんなの「わかる・できる」につながる授業づくり ～特別支援教育の視点に立った学習指導を通して～

<特別支援教育の視点に立った工夫>環境づくり



←◎マス目の書かれた黒板

板書するときの手がかりになり、子どもの目に分かりやすい板書となります。

◎整頓された教室前面→

落ち着かない状態を生み出す可能性のある「雑刺激」の少ない状態を作ります。黒板には日付と1日のスケジュールを提示し、脇には月の生活目標とカレンダーを掲示する程度です。



←◎1日のスケジュールの提示

◎1時間の流れを示す板書→

自分の中で見通しがもてると落ち着いてその活動や課題に取り組むことができます。



◎ファイルの手順を簡素化するために→

昨年度の1年生に有効でした。国語など毎時間のプリントを綴っておくために、このラインを引いてみました。次のプリントファイルするとき、この部分にのりをつけました。プリントをなくす子はいませんでした。



◎絵カード→

1年教室で使用しているものです。ここぞというときだけ貼ります。右下は中学年で使用して有効性を検証しているところです。



←◎布による目隠し

教室前面にある棚や脇にある棚には布が貼ってあります。棚の中の物も「雑刺激」になるためです。



◎3人座席→

物理的に離席できない状況を作ります。3人の中央に多動傾向の子が座るように試みました。昨年度は非常に効果の上がった学年がありました。



←◎きちんと片付けるための工夫

体育館のボールの種類と矢印を表示してあるので、間違いなく片付けることができます。

3 年生：国語授業での実践

単元名「自まんの食べ物図かんを作ろう」

教材名「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

全 13 時間

＜単元のねらい＞

- ① 「はじめ・中・おわり」のそれぞれの性格（役割）を踏まえた三段構成を意識して、説明文を書くことができる。
- ② 隠れた問いや繰り返し出てくる言葉などを手がかりに、中心文を見つけることができる。

＜児童の実態＞

どんなことにもまじめに取り組む児童がいる一方で、学習に対して積極的にならない児童も多い。特に、国語科では、はじめて読む文章や説明文の読み取りに対して苦手意識がある児童も多く、集中できない様子や学習意欲の乏しい様子が見られた。しかし、ペア学習を取り入れることで、自分の考えに自信をもち発表することができたり、授業に参加できるようになってきたりしつつある。

説明文の学習では、1学期の教材文「イルカのねむり方」・「ありの行列」で「はじめ・中・おわり」の三段構成について学習している。また、その学習をもとにして、「気になる記号」では三段構成で説明文を書いた。学習したことが次につながるという意識も少し出てきた。

このような児童の実態から、意欲をもって楽しく学習活動ができるようにするために、単元全体の展開として「自慢の食べ物図鑑（説明文）を作るためのわざを筆者である国分さんから手紙で教えてもらう」という設定にした。この手紙は、二通である。一通目は「わざ」を見つけ出すヒントや動機付けを図る導入時のもの、二通目は見つけた「わざ」を確認する終末時のものである。

なお、本単元での「わざ」は、以下のように定義する。

わざ：説明文を書くために必要と思われる言語知識や言語技能

＜押さえるべき指導内容＞◎弱さの見える内容 ☆新出の内容 ○個別の内容

・言語知識 ・言語技能	考えられる支援内容
<p>「わざ」として取り上げる内容</p> <p>① 絵や写真の役割 ○</p> <p>② 「はじめ・中・おわり」の文章の構成の把握 ○</p> <p>③ 「はじめ」における隠れた問い ☆</p> <p>④ 内容のまとめりごとに形式段落を分けること ○</p> <p>⑤ 「中」における形式段落内の文の順番（中心文＋具体例） ☆</p> <p>⑥ 「中」における事例の順番 ☆（読み手にとって分かりやすいものからわかりにくいもの</p> <p>⑦ 「おわり」のまとめ・筆者の考え ○</p> <p>☆中心となる文（中心文）</p>	<p>・考えるための手がかりとなるような文章の提示方法（部分提示・並び替えなど） →学習計画の工夫の欄参照</p> <p>・配慮を要する児童への対応（色つけや拡大図などの視覚支援等） →学習計画の配慮の欄参照</p> <p>・ペア学習による学び合いの促進</p> <p>・くりかえし出てくる言葉（「くふう」）や題名などを手がかりにした見つけ方を押さえる。 →問い（隠れた問い）と答えの関係、中心文の比較</p>

＜子どもたちのゴール意識＞

- 他の学校の3年生に自慢できる図かんを作りたい。
- 食べ物図かんを上手に作れる「わざ」を集めていきたい。

A : (読む) 説明文のわざやその効果に気づくことができる。(7つ全部) (書く) 説明文のわざを活用しながら説明文を書くことができる。 (6つ以上)
B : (読む) 説明文のわざに気づくことができる。(4つ以上) (書く) 説明文のわざを活用しながら説明文を書くことができる。 (4つ以上)
C : (読むこと) 説明文のわざへの気づきが4つ未満である。 (書くこと) 説明文のわざの活用が4つ未満である。

<学習計画>

家庭学習の課題：加工教材「すがたをかえる大豆」の音読 **赤字は、授業の成果と課題**

段階	時間	学習活動	支援内容	
			工夫	配慮
ゴール意識の醸成	1	<ul style="list-style-type: none"> どんな食材からできているかクイズをする。 「自まんの食べ物図かんを作ろう」と課題を設定し、見通しをもつ。 文章のだいたいの内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> クイズで興味関心を高める 教師が作成した教材文(おわりの段落の簡略化) 1問1答による簡単な内容理解(やさしい質問からする。) 一読後の質問だと答えられないことがわかり、授業導入時に少しずつ内容理解の時間をとることにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えの文字数を教え、教材文から探す手立てとする。 答えに丸印をつける。
音読	随時	<ul style="list-style-type: none"> 様々な方法や形態で音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> 追い読み 。読み 表現読み ペア音読 リレー音読 速読 	
説明文のわざの習得	2	<ul style="list-style-type: none"> 絵や写真の役割について、考える。 わざ1：写真や絵があると分かりやすい。(内容理解) 	<ul style="list-style-type: none"> 形式段落に合わせて写真を並び替えて当てはめていく。文や言葉に注目しながら検討する。 作業の指示が曖昧だったこと、写真を一気に配ったことで逆に時間がかかってしまった。作業手順の例示が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> つぶやきから、「にる」や「いる」などの言葉を押さえていく。 文章への立ち返りの意識がうすい。言葉や文にこだわった説明ができた子をほめることで意識を高める。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ・中・おわり」の3段構成になっていることをつかむ。 わざ2：「はじめ・中・おわり」にする(内容理解) 	<ul style="list-style-type: none"> 「イルカのねむり方」と比較する。「はじめ」と「おわり」の性格を想起する。 具体的事例に着目させることで、「中」のはじまりを意識させる。 相手の考えを聞いたとき、聞き方として「うなずき」「同意」の態度を示すスキルを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品を丸で囲んで、見つけやすくする。 食品の写真を手がかりにした子のほうが多かった。

(国分さんの手紙をヒントに「わざ」を集めよう)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」では、問いを隠すこともできることに気づく。 <p style="text-align: center;">わざ3：問いはかくれることもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルカのねむり方」と「すがたをかえる大豆」の「はじめ」を比較する。 ・教師の作成した問いの文を提示し、「はじめ」の2つの段落のうち、どちらに入れるのが相応しいか検討する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 問いの文：おいしく食べるには、どんな工夫があるでしょうか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・問いの文がある形とない形を比較して意見を交換する。 <p style="color: red;">ていねいな準備は必要。でも、子どもの様子を見て、使用する・しないは判断する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大された教材文の提示 (「はじめ」の2つの形式段落) <p style="color: red;">授業のテンポを作れなかった。分かりやすく準備したものが逆にペースを乱す原因になった。</p> <p style="color: red;">机の上に3種類のプリントが載ったことで、必要なものがわからなくなる状態になった子がいた。</p> <p style="color: red;">押さえる部分・話し合わせる部分をクラスの状態を選び、あえて準備しても必要ないと思ったら、きることも大事。(→サンプルに)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」の5つの形式段落について、内容のまとまりごとに段落を分けたほうが文章を読みやすいことに気づく。 <p style="text-align: center;">わざ4：だんらくは、内容のまとまりごとに分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・隠れた問いに対する答えを見つける。→答えの文に線を引く。 ・ワークシートに、答えと食品を形式段落ごとにまとめる。 ・「中」の文章をすべてつなげた文章と形式段落で分けた文章を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ目を学級全体で行い、注目する言葉「くふう」を共有する。 ・拡大されたワークシート
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」の形式段落は、すべて答え(中心文)が最初に書かれていることに気づく。 ・中心文について知る。 <p style="text-align: center;">わざ5：段落のさいしょに、中心文がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの文を色付けした教材文を提示する。 ・答えの文が最初にあるわけを考える。 ・答えの文以外を除いた文章との比較をして、答えの文以外の内容(具体例)が必要か検討する。 ・答えの文とそれ以外の文章のどちらが筆者にとって伝えたい文であるかを検討する。 →日常の場面を想起させる ・筆者が一番伝えたい文章が中心文であることを押さえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの文とそれ以外の部分を色分けしてひと目でわかるようにする。 ・短い文章で確認できるため、3段落と4段落を中心に取り上げる。

	7	<ul style="list-style-type: none"> 「中」の具体的事例は分かりやすいものから、順に書かれていることに気づく。 <p>わざ6：「中」のだんらくは、分かりやすいものから順に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「中」の5つの段落がバラバラにされた文章を提示し並べ替えをする。 並べ替えをしたものを比べる。 →なぜそのような並び方にしたのか理由を聞く。 なぜ筆者がそのような「くふう」の順番にしたのか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落ごとに色をつけ、考え方を比較するときにはひと目で分かるようにする。 ホワイトボードを使い、その上で並べ方を考える。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 「おわり」のまとめ方を考える。 <p>わざ7：「おわり」ではまとめと筆者の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 8段落の筆者の考えを取り除いた部分を提示する。(第1時から) 筆者の考えの文章を提示し、なぜその文章があるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えの文を穴あきにして埋めていく形で考える。
説明文のわざの活用 (自まんの食べ物図かんを作ろう)	9	<ul style="list-style-type: none"> 食べもの図かんを作るための流れを確認する。 調べたい材料を1つ決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「食べ物のひみつを教えます」を参考にする。 7つのわざと教材文を比較する。 教科書に取り上げられている、6つの材料からできた食品について知っていることを紹介しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の見通しがもてるように拡大図で掲示する。
	10	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ材料について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 何をどのように調べればよいのかを明確にしてから活動する。 必要なことを選んでメモをする。 同じ材料を選んだ児童同士で、調べ活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1で手順を示す。 グループ活動での協力
	11	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P36～37を参考にしながら、文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文メモを作る。 書こうとする順に番号を付ける。 内容のまとまりごとに段落を分けて書かせる。 絵や図を入れて分かりやすくする。 自分の意見や感想も書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 穴あきの例を示してそこに言葉を入れる形で文書を作る。 →ワークシート2
	12			
	13	<ul style="list-style-type: none"> 互いの書いた文章を読み合い、分かりやすく説明できているところを交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> わざを一覧表にまとめたものを掲示し、友だちの作文を評価する観点を明確にする。 友だちの作品に付箋を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価するわざを絞る。

<本時の計画>

(1) ねらい

「中」の形式段落は、分かりやすいものから順に書かれていることに気づく。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動	●留意点 ☆評価
3	○学習のめあてを確認する。 国分さんからの手紙より 「中」の5つの形式段落の並び方を考えましょう。	●形式段落ごとに分けられた短冊をバラバラに提示する。 ●提示したものと同じ短冊をペアに1組ずつ配る。
1 5	○「中」の5つの形式段落の並べ替えをする。 ・ペアで相談しながら、ホワイトボードに色分けされた短冊を並べる。 ・形式段落の中心文を声に出して読みながら、並べ方を全体で確かめる。	●短冊は色分けして、考えを比較するときにひと目で分かりやすいようにする。 ●ホワイトボードの位置を指示する。 ●早く終わったペアは、他の作業が終わったペアと見せ合ってもよいことにする。
2 2	○なぜ、筆者がそのような「くふう」の順番にしたのか話し合う。	●中心文に線を引き、形式段落に書かれている「くふう」がひと目でわかるようにする。 ●あえて違う並べ方でもよいのではないかと提示し、児童の考えをゆさぶる。 ●出てきたつぶやき、「いちばん分かりやすいのは、・・・」、「次に、・・・」など接続語に注目した意見を取り上げ、全体に紹介する。
5	○本時のまとめをする。 本時でわかった「わざ」を各自でノートに書く。 発表して、まとめる。 国分さんの答えの書いてある手紙を読む。	●話し合いの内容を意識できるように、話し合いの途中で、ペアで確認や相談をさせる。 ☆形式段落は、「くふう」が分かりやすいものから順に並んでいることに気づく。 ●本時でわかった「わざ」をペアで確認してから、ノートに書かせる。 ☆本時でわかった「わざ」についてノートに書いている。

5年生：算数授業での実践

単元名「分数のたし算・ひき算」

全6時間

＜単元の目標＞

- ・異分母分数の加法及び減法の意味と計算のしかたを理解することができる。
- ・異分母分数の加法及び減法の計算のしかたを、図や式を用いて考えることができる。

＜単元と実態＞

学級集団としては、男女共に明るく、活発で素直な子が多い。しかし、学習に集中できず落ち着かない子も多く、学級全体としても集中力が長く続かない。学習ルールを繰り返し指導し、徹底してきたことで、学習に対する姿勢は、少しずつ改善方向にある。落ち着いた雰囲気の中で学習できる時間が長くなるに伴い、学習内容の理解が早くなってきている。

「数と計算」領域に関しては、

- ・基本的な四則計算に時間がかかり、正確さにかける児童が多い。特にわり算やひき算に対して抵抗感を感じており、苦手としている。また、1学期の小数計算では手続きが増えたため計算に時間がかかり途中で投げやりになってしまう様子も見られた。
- ・学習内容（計算のしかた）の意味理解やイメージ化が不十分であるためか、既習内容が定着していない児童が多い。また、計算式と問題場面が結びついていないため、文章問題の立式で誤りが多くなる。
- ・新しい問題や発展的な問題に対して、既習事項を活用して解こうとしない。という様子が見られる。そのため、問題数をしぼったり、絵図等を使ってイメージをもたせたりするよう心がけてきた。分数のレディネステストでは、分数のイメージが不十分で分母と分子を取り違っている児童が1／3程度見られた。

＜押さえるべき指導内容＞

◎弱さの見える内容 ☆新出の内容 ○指導の工夫 ・個別対応

指導内容	考えられる支援内容
【前学年まで】 ◎帯分数⇒仮分数、仮分数⇒帯分数 ◎同分母分数の加減 【前単元（倍数と約数、分数）まで】 ◎約数と公約数 ◎大きさの等しい分数 ◎分数の大小	○課題提示の仕方を工夫する。 ○本時までの「授業で分ったこと」を発見アイテムとして整理し、板書させる。その際、言葉だけでなく、絵図や式を用いてまとめる。アイテムは、教室にも掲示しておく。 ○「課題」⇒「考えるために必要な情報や子どもの考え」⇒「発見アイテム」を整理して構造的な板書を工夫する。 ○授業の導入などチャレンジ問題（5問程度の復習プリント）を行い、反復練習させることで、定着を

<p>【本単元】</p> <p>☆異分母分数の加減</p> <p>①分母の数をそろえて計算する。(通分)</p> <p>②答えをできるだけかんたんな分数に直す。(約分)</p> <p>③答えを仮分数から帯分数に直す(繰り上がり)</p> <p>④帯分数から仮分数にして計算する。(繰り下がり)</p>	<p>図り、自信につなげていく。</p> <p>○「分数は、単位分数のまとまりである」のイメージをもたせるために、分数折り紙、リットルますボードなど教具を工夫する。また、単なる計算処理の指導にならないよう、図絵(テープ図、面積図、リットルますシート)を用いて、計算の仕方を説明させるなど展開を工夫する。</p> <p>○個人→ペア(グループ)→全体を基本とした授業づくりを意識的に行い、自力解決と考えの共有の場をしっかりと確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題のレベルや問題数を工夫する。 ・必要に応じてヒントカードを用意する。
---	---

*分数リットルます：リットルますの4辺にいろいろな単位分数のめもりをはりつけたもの

*リットルますシート：リットルますの枠をあらかじめかいたワークシート

*リットルますボード：共有化のため、リットルますシートをホワイトボードにかいたもの

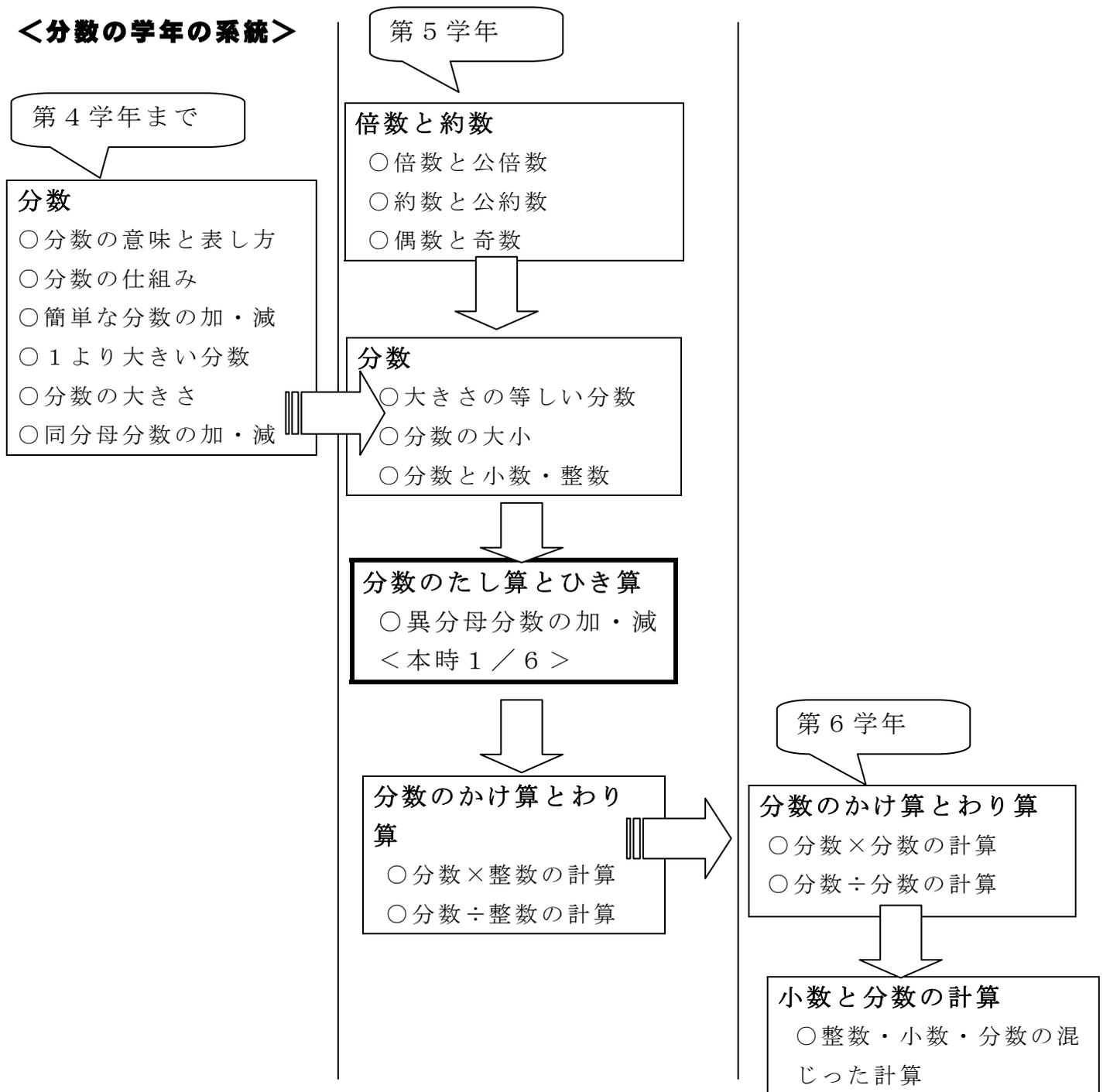
<到達目標>

- A：異分母分数の加法及び減法計算が正確にできる。また、その計算のしかたを理解し、わかりやすく説明できる。
- B：異分母分数の加法及び減法計算のしかたがわかり、正確に計算することができる
- C：異分母分数の加法及び減法計算のしかたがわかる。
- (異分母分数の計算は、通分して分母をそろえると計算できることがわかる。)

<子どもたちのゴール意識>

- 獲得したアイテムを用いて、新しい問題や難しい問題にもチャレンジしたい。
- 分母が違う分数のたし算やひき算も計算できるようになりたい。
- 友だちに絵・図・式などを用いながら、計算のしかたを分かりやすく説明したい。

<分数の学年の系統>



<単元構想>

事前：前単元「分数」では、数の処理だけの学習にならないよう絵図等を用いた教材提示を工夫して授業をすすめた。また、分数折り紙や分数カルタなどの作業的な内容も取り入れ、分りやすく気づきのある授業になるよう工夫した。「課題」から「アイテム発見」の流れで学習を進めてきた。

	時	学習活動と発見アイテム	支援内容
分数のたし算とひき算(6)	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 異分母分数の加法の意味と計算のしかたを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 発見アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> 分母がちがうたし算も、通分をして分母を同じにすれば計算できる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前学年、前単元のアイテムを掲示しておき、既習事項を想起しやすくする。(各時間) 解決のキーワードとなりそうなアイテムを全員で共有してから自力解決に入る。 導入で同分母分数のたし算を行うことで自信と意欲をもたせる。 一人ひとりの理解を深めるためにリピートやグループトークを行う。(各時間) ワークシートを工夫する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 約分できる場合や答えが帯分数になる場合の加法の計算のしかたを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 発見アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えが約分できるときは、約分すると分りやすい。 答えが仮分数になったら帯分数に直すと分かりやすい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りで自信をもたせる。 リットルますシートに表現するのが困難な答えになるような課題を工夫する。 ワークシートを用いて、絵図筆算で考えさせる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 帯分数の加法の計算のしかたを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 発見アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯分数を仮分数に直して計算することもできる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> イメージをもたせるために、リットルますシートを用いて指導する。 解決方法に名前をつけることで計算の仕組みのイメージをもたせる。 できた子からその説明が相手に通じるかどうか伝えさせる。伝えられた子は自分でその説明をリピートできるかどうか人に説明しに行く。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 異分母分数の減法の意味と計算のしかたを、加法をもとに考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 発見アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> 分母がちがうひき算も、たし算と同じように、分母を同じにすれば計算できる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 加法の場面と比べながら、使えるアイテムを共有化してから課題に入る。 課題の段階提示をする。 減法では、様々な量分数の問題を提示し、リットルます同様に考えられることをおさえる。(kg、m)。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 帯分数の減法の計算のしかたを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決時には、イメージをもたせるために、数直線やテープ図を提示す

	<p>例 発見アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯分数を仮分数に直したり、整数部分と真分数に分けたりしてひき算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●解決方法に名前をつけることで計算の仕組みのイメージをもたせる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●レベル別問題を用意する。

<本時の指導計画>

(1) 本時のねらい

- ・アイテム（既習事項）を用いながら、異分母分数の加法の計算のしかたを考える。

(2) 本時の展開（1 / 6 時）

時間	学習活動	●教師の支援 ・留意点
12	<p>1 問題文を読み、本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 2つの入れ物にジュースが入っています。 それぞれ□Lと□Lです。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ 2つの入れ物にジュースが入っています。 それぞれ $\frac{1}{3}$L と $\frac{1}{2}$L です。 合わせて何Lになるでしょうか。</p> </div> <p>C : ? . . . 。できるの？ C : $\frac{1}{3} + \frac{1}{2} = \frac{2}{5}$ になる。 C : 分母を同じにする。 C : 通分をすればいい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●前学年、前単元のアイテムを掲示しておく、既習事項を想起しやすくする。 ●問題文の文章を段階的に提示して問題場面をイメージさせる。 ●フラッシュカードで同分母分数の問題を出し自信をもたせる。左の課題の□部分の数値を変えていく。同分母分数5問くらいの後、異分母分数の問題（$\frac{1}{3} + \frac{1}{2}$）になるように提示する。 ●今までとの違いに気づかせ、分母をそろえればできるということを引き出し、共有させる。
13	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎分母のちがう分数のたし算のしかたを考えよう。 $\frac{1}{3} + \frac{1}{2}$</p> </div> <p>2 分数のたし算のしかたを各自で考える。</p> <p>C : 通分する。（矢印指導） C : 目もりをそろえる。（リットルますシート） C : 倍分していけば分母がそろえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自力解決に入る前に、これまでのどのアイテムが使えるかを問い、出てきたワードを板書する。 ●分数リットルますを用いて、実際に異分母分数のたし算を見せ、正答を確認する。

	※自力解決 3 分後、ペアトークやグループで伝え合う。その後、再び考えをワークシートに記入する。	●ワークシートに「式コーナー」「絵図コーナー」を設ける。自力解決が早く終わった児童は相手を見つけて自分の考えを説明するように促す。
10	3 全体で考え方を共有する。	●発表時にリットルますボードを準備し、説明に使えるようにする。 ・いろいろな児童が関わり合いながら、説明できるようにする。
5	4 練習問題を解く。	・2問の練習問題を解いた児童はオリジナル問題を作る。
5	5 今日のアイテムをまとめる。	●今日見つけたアイテムを書かせる際には、書き出しや文末、字数制限を与える。

(3) 評価

- A：既習事項を用いて、異分母分数の加法計算の仕方を理解し、わかりやすく説明できる。
- B：友だちの説明から、異分母分数の加法計算の仕方を理解し、自分なりの言葉で説明できる。
- C：異分母分数の加法計算の仕方がわかる。